

# 集落支援員だより

## 第31号

発行者 東和地域集落支援員

連絡先 66-2490

発行日 令和4年12月26日(月)



### 趣に喜ぶ素山子ずらり

東和地域でも秋の催しは大方終わり、農繁期を過ぎた今日、農家の方々は「骨休め」といった時期ではないでしょうか。布沢集落では農業従事者が多く、特に米作りには集落の皆が力を入れ、棚田の美味しい米を多くの食卓に届けているようです。

いま、農業人口が減少し、日本全土で年間30万人もの離農者があり、一方貧困により欠食を余儀なくされる人も多いという。食は生活の原点であるので、何とか食については全ての人々にゆとりのある社会であってほしいものです。

そついった中、布沢集落では10月30日に第二回となる棚田の芸術祭が開催され、多くの参加者が集まり、昨年同様に中身の濃い開催となりました。

また、今年も素山子コンテストには多くの方々の趣向を凝らした力作の展覧があり、その中で福島大学行政政策学類の岩崎先生の作品が見事優秀賞に選ばれました。

今回も地元天女の会(代表 菅野晃子さん)の皆さんの心のこもった

食事が振舞われ、集まった方々は餅や豚汁に舌鼓を打ち、布沢の自然環境を満喫しながら晩秋の芸術祭を楽しんでいました。



秋風の元、参加者で賑わう棚田

### より安心できる集落へ

西谷集落は、住吉山や本城山、陣馬山など名のある山々を背にした集落であり、また集落の中央には安達太田川が流れており、過去には大雨で川が氾濫して住民を悩ませたというような背景があります。

また、この時期は雨模様の日も多く、集落には高齢者世帯も多いです。自主防災会では、その方々へ戸別訪問し、住民の不安に対する聞き取り調査を行い、安全へのアドバイスを行いました。なお今回は西谷防災会(代表 菅

### 厄介な竹に救世主

いま集落では、立木の太木化と竹の農地への浸食が問題となっております。12月11日、戸沢七区保存会(代表 梅原章和さん)では、大学生の力を活用した集落復興支援事業の一環として、福島大学行政政策学類の岩崎ゼミの学生14名と保存会の会員14名とで、針道大町の斉藤理一さん宅の竹藪の整理、伐採を行いました。当日は朝から雨模様でしたが、学生の若い勢い以後押しされ、予定していた範囲の作業を無事終えることができました。

野拓さんの結成以来初の戸別訪問巡視ということで、道路や家の周りまで危険なところはなにか点検しました。今回点検を受けられた方々は、防災会の方の訪問に対して、これか



戸別訪問の様子

らは安心して、これからは安心してこの地で暮らせますと言っていました。いま、安達太田川は川幅拡幅工事の最中で、今後は、川の氾濫の心配はなくなり、川への不安が解消されると集落の全員が期待をしているようです。



竹の伐採に奮闘する大学生

今回伐採した竹は、後にチップ化し集落での農地の肥料として有効活用することによって、今後の作物の収量に期待が持たれます。また、保全会では、集落内の環境保全活動を行い、数々の成果をあげており、今後も息の長い活動をお願いしたいと思っております。

# 笑顔あふれる暮らし

木幡婦人会会長 武藤 トミ子さん

木幡住民センターのきわどいに咲いている花壇を見る度に、嬉しい気持ちになります。皆と一緒に植えた楽しい時も見えるから嬉しいと思います。何かを共にする事は本当に素敵な事です。

木幡婦人会には、手芸クラブがあります。会員の方が先生となり、ご自宅を開放して下さっています。作品制作は勿論楽しいのですが、会社の仕事や家事から少しでも離れ、他愛のない話をしながらも、とても充実感を得られるのは、私だけではないと思います。

木幡婦人会も年々会員数が減少していますが、地区に自主的な女性の団体がなくなってしまうのも避けたく、協力し合いながら、自分達の価値観みだいなものを越えて、何か新しい知識や経験をしていくことが大切だと思っています。そして楽しく婦人会活動に取り組んでいきたいです。

私の住む木幡大実取地区には、80年も続いている保存会があり、今はみどり愛好会となり唐笠踊りをやっています。月に一度集会所にて、練習しています。会長を中心にごよめまつりが続いています。中にはツニア世

界大会重量挙げのメタリストもいるんですよ。設立後80年ですから、親達の世代から受け継いでいる訳です。不思議と昔はよっぱい息子さんが、唄・太鼓も息子や孫に引き継がれています。年に何回かのこの会で飲むお酒が私は一番おいしいです。



木幡大実取地区で80年続く唐笠踊り

小さな団体ではありませんが、仲間・つながりを感じます。皆でやる面白さは格別です。コロナが終息し、お呼びがかかった時に、足が上がりません、体が回らない、なんて事になるんじゃないかと心配しています。実際のところ、前期高齢者がしめています。(笑)。せつかくのご縁を大切に、踊れるうちは愛好会を続けていきたいと思えます。楽しい気分を力として皆さんと共に。

# 季節を感じる

## ウォーキング

木幡岡場 菅野 鈴子さん

恥ずかしながら、私は地元で居ながら、「あぶくまふるさとウォーク」を知らず、会社の同僚とともに、「お散歩気分」で参加を申し込みました。

当日は、「ウォーク日和」と思いながらスタート。しかしながら、15分後、私の心は折れました。私より先輩の足さばきに脱帽し、先頭はすでに「見えないうらへん」...

やっこの思いで、大根畑で紫色の大根をゲットしました。そこから、ゴールを目指して、紅葉始めの川沿いを、水の流れを聞きながら帰ってきました。我ながらよく10kmも歩いたと思います。



木幡岡場 菅野鈴子さん

実行委員の方からは、地元の参加者が少ないと聞きました。来年は地元の友達を誘って参加したいと思えます。もちろん体力をもう少しつけて！



あぶくまふるさとウォークの様子

「集落支援員だより」は、東和地域の情報や地域活動等をお届けしています。

どんな小さな活動でも取材に伺いますので、載せたい情報がありましたら、集落支援員までご連絡ください。

東和支所地域振興課(集落支援員)  
問い合わせ先：66-2490(直通)